

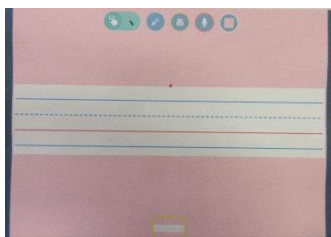
ロイロノートを活用した外国語科の評価

【内容】ロイロノートの様々な機能を使った授業の展開や評価について

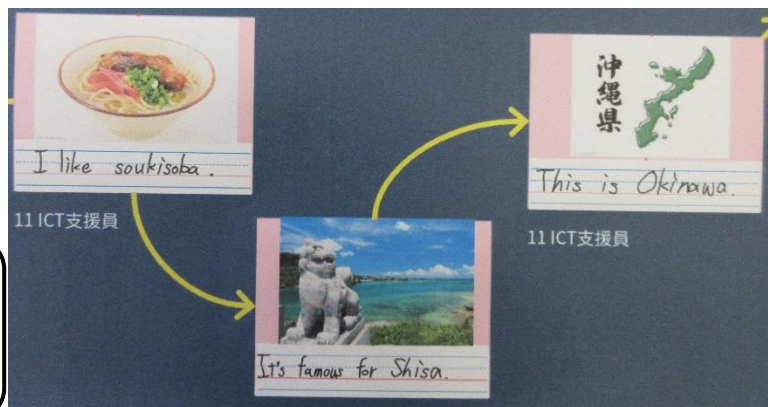
【使用アプリ】ロイロノート

【事例紹介】

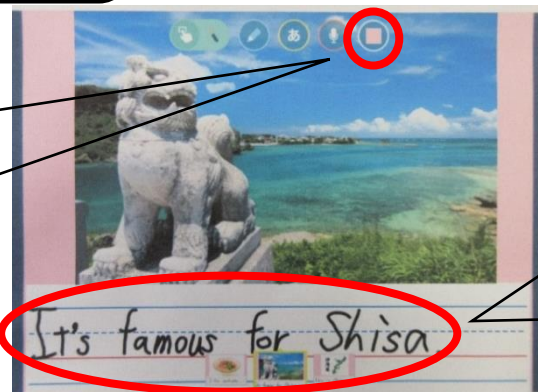
5・6年生の外国語科では、話す・聞くといった外国語活動に必要な領域に加えて、書く領域が追加される。また他の主要教科と同じく、市販のテストを購入して実施されている学校がほとんどだと思う。市販のテストでは、CDを使った聞くテストと簡単な単語や文法の穴埋めをする書くテストという構成だ。しかし、それでは話す領域の定着度を量れないばかりか、評価も曖昧になってしまう。そこで単元毎に、ロイロノートの様々な機能を活用し、話す・聞く、そして書く活動を多く設けるよう心掛けている。



ICT 支援員の先生に罫線入りの付箋を作成していただきました。写真を貼り付けたり、罫線を複製したりして、自分の伝えたいことを形にしていきます。ほとんどの単元で使用できます。



録音機能を使用し提出させることで、個別に話す領域の評価や指導ができる。



単語の間違いや文法の間違いがあるときは、こちらで訂正後、返却を行えば、スピーディーに児童への指導が可能である。

【終わりに】

ロイロノートの様々な機能を活用することで、個々に応じた適切かつ的確な指導が行える。また、児童が提出した課題を共有することで、聞く領域をカバーできるだけでなく、感想を付箋にして送り返うことで、より効果の高い学びを得ることができると考える。

☆教育委員会主幹講師☆ 今回は、「ロイロノートを活用した外国語科の評価」について報告いただきました。録音や共有の機能を用いることで、生徒が表現の幅を広げたり、録音した内容を追加したりするなど、言語活動を充実させることにつながったのではないのでしょうか。客観的かつ速やかな、話す領域の評価について、今回紹介いただいた方法を参考に各校でも取り組んでみてはいかがでしょうか。また、教師による評価だけでなく、自己評価・相互評価についてもヒントをいただきました。まだまだ自分の発した音声を聴くことに慣れていない児童が多いことも考えられます。外国語の学習に限らず、日ごろから録音機能を活用した学習活動を取り入れ、表現の幅を広げられるようにしていくことも必要かと考えます。今回、罫線入りの付箋の作成についてICT支援員さんを活用していただいた報告もありました。このように、ICT支援員さんの有効活用について紹介していただく学校があれば、各校で参考になりますのでお願いします。